

Economic Indicators

発表日: 2024年10月7日(月)

景気動向指数(2024年8月)

～一進一退が続く。基調判断は「下げ止まり」で据え置き～

第一生命経済研究所

シニアエグゼクティブエコノミスト 新家 義貴

(TEL: 050-5474-7490)

CI一致指数は一進一退

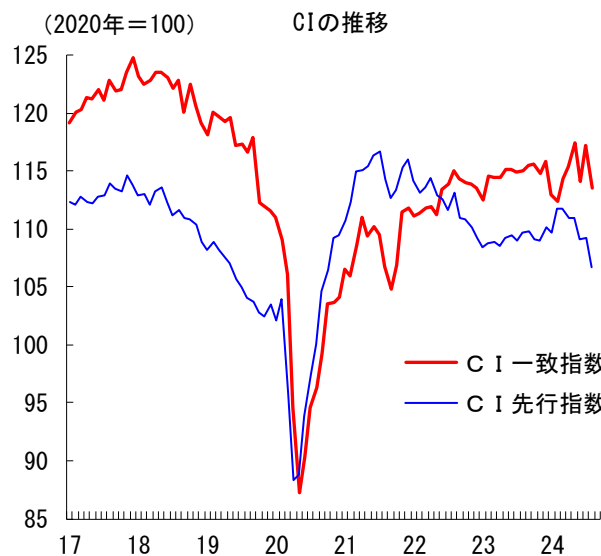
内閣府から公表された2024年8月の景気動向指数では、CI一致指数が前月差▲3.7ポイントと大幅に低下した。台風襲来に伴って自動車を中心として工場稼働が一時的に停止されたことが大きく影響した形である。CI一致指数は、5月が前月差+2.1ポイント、6月が▲3.4ポイント、7月が+3.1ポイント、8月が▲3.7ポイントと、大きな振れを伴いながら一進一退の動きが続いている。なお、8月の内訳では、鉱工業生産指数や生産財出荷指数、投資財出荷指数、耐久消費財出荷指数など、台風の影響もあって生産、出荷関連系列が大きな押し下げ要因となった。

基調判断は「下げ止まり」で据え置き

CI一致指数の基調判断は「下げ止まり」で据え置かれた。8月の数字次第では「上方への局面変化」に上方修正される可能性もあったが、8月が大幅低下になったことで、基調判断上方修正は実現しなかった。

なお、8月のCI一致指数の7ヶ月後方移動平均前月差は+0.07と辛うじてプラスを維持したが、3ヶ月後方移動平均前月差は▲1.34とマイナスに転じている。仮に9月の反発が大きければ9月分「上方への局面変化」への基調判断上方修正の基準を満たす可能性がある一方、9月以降も冴えない動きとなれば、最短10月分「悪化」への下方修正となる可能性もある。次の修正が上になるか下になるかは現時点ではっきりせず、方向感がつかみにくい状況となっている。

先行きについても不透明感が強い。8月の生産落ち込みについては台風による工場稼働停止の影響が大きく、9月には自動車を中心に反発が見込まれる。もっとも、製造工業生産予測指数は9月に前月比+2.0%、経済産業省による補正試算値では前月比+0.3%と、8月の生産の落ち込み(前月比▲3.3%)に比べて戻りが鈍く、一進一退の域を出ていない。需要面を見ても、米国経済の減速が予想されるなか輸出の増加に多くは期待できない状況であり、先行きの生産動向には不透明感が強い。鉱工業生産と関係の深いCI一致指数においても、当面回復感に欠ける動きとなることが予想される。



(出所)内閣府「景気動向指数」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

